

【講演の概要】

今回の講演では、はじめに言語の使用における調整という概念について、その概略をお話しします。その後、私たちが日常の言語使用において意図的に、あるいは、非意図的に用いている「前景化と背景化」と名付けることのできる調整の仕組みについて、従来、文法ではなく語法研究の対象とされていた英語と日本語の具体的な事例に用いてご一緒に考えます。

下に、その一部を、ご紹介しておきます。

(1) Doctor's we: "So, we're awake. How are we feeling?" - Clancy, *Patriot Games*

(2) Generic you: "Well, you know those cold bitches that work in those stores and try to intimidate you?" - Lawton & Metcalfe, *Pretty Woman*

(3) 不定冠詞+固有名詞: "Do you know a Colonel or Mrs Bantry?" - Christy, *The Body*

(4) 装い代名詞: 「あの頃は、あれの恠気が強うてな」 - 隆慶一郎『鬼磨斬人剣』

(5) 矛盾名詞: 「お前なに部?」 「帰宅部」

さらに、知りたい方のための参考図書: 久保 進『言語行為と調性理論』(ひつじ書房、2014)、久保 進『調整と調整行為』(晃洋書房、2017)。

【講師紹介】

久保 進 (くぼ すすむ)

理論言語学(語用論、とりわけ言語行為論)。神戸市外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了 文学修士。博士(言語文化)(関西外国語大学大学院外国語学研究科: 論文博 第6号)。松山大学経済学部教授・松山大学大学院言語コミュニケーション研究科教授を経て、現在松山大学名誉教授。学校法人松山大学より平成14年12月松山大学功労賞(学術研究)を受ける。日本語用論学会において副会長(2期)、その後、理事を務めた。主な研究業績には、Daniel Vanderveken との共編 *Essays in Speech Act Theory* (John Benjamins)、『言語行為と調整理論』(ひつじ書房)を含む著書22冊がある。現在72歳。*Oxford Dictionary of English Language* の翻訳へ編者の一人として関与のほか、俳句(出湯句会会員、俳句結社『臺』同人)、川柳、や箴言誌の世界へも参入している。この三月に、松山在住の詩人、平子 一氏の詩集『知床』の翻訳 *Shiretoko* を大学院科長の Bruce Lander 教授と共訳。